

学力向上マネジメント支援事業

目的

「塩竈市独自の小中一貫教育」及び「しおがま『学びの共同体』による授業づくり」（「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業づくり）等の本市の教育施策の中に、本支援事業に係る必須項目及び選択項目の内容を取り入れ、市内すべての小中学校で継続的に実施することにより、本市の児童生徒の学力向上を図る。

内容

- ①必須項目
- ア 標準学力調査 年2回（4月と12月に実施）
 - イ 全国学力・学習状況調査結果分析を踏まえた授業改善
 - ウ カリキュラムマネジメントの工夫
 - エ 小中連携の取組

- ②選択項目
- オ 市町村独自の実態，要請に応じて実施する取組（選択制）
 - 授業力向上研修会の実施
 - 授業づくりのための先進地域への研修視察
 - 学級集団診断テストの実施（Q-U調査）

ア 標準学力調査 年2回（4月と12月に実施）

① 「結果の分析と今後の取組シート」の作成

4月の結果を基に、「結果の分析と今後の取組シート」を作成しています。
指導者自身が「成果目標」と「手立て」を書き込むことで、確実な授業改善につながります。

② 手立て一覧の作成と効果の検証

「結果の分析と今後の取組シート」から「各学級の手立て」の項目部分を抜き出し、各校ごとに一覧にまとめ教職員で共有しています。
手立て一覧には実施の有無と効果を評価する欄を設け、12月に指導者が自身の授業改善の取組を評価し、効果の検証を行います。
手立ての効果を検証することにより次の改善策の立案につなげています。

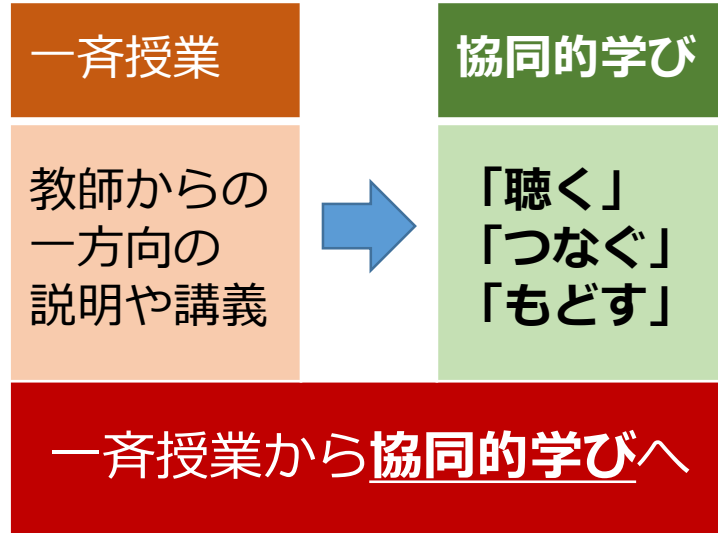
③ 正答率が4割に満たない児童生徒への対応

正答率4割未満の児童生徒にしっかりと目を向けながら、指導を積み重ねています。

イ 全国学力・学習状況調査結果分析を踏まえた授業改善

① しおがま学びの共同体による授業づくり

児童生徒のわからなさをつなぐ授業，「聴く—つなぐ—もどす」授業という「しおがま学びの共同体による授業づくり」に基づいた授業づくりを進めています。学び合いを通して，児童生徒間に柔らかな関係が築かれ，分からないことを自ら聞きながら学びに向かう姿勢が多く見られるようになってきています。



イ 全国学力・学習状況調査結果分析を踏まえた授業改善

② 市教委訪問による授業研究会の実施

すべての小中学校において外部講師や市教委訪問を活用した授業研究会が行われ、授業改善に一定の効果が出ています。

	計	一小	二小	三小	月小	杉小	玉小	浦戸	一中	二中	三中	玉中	市
校内研究会	51	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	
中学校区	5							1	1	1	1	1	
市公開研究会	5							1	1	1	1	1	
全体研修会	2												2
研修会・計	61	6	5	6	5	5	5	6	5	5	6	5	2
(外部講師)	21	4	1	4	1	1	1	1	1	1	3	1	2

イ 全国学力・学習状況調査結果分析を踏まえた授業改善

③ 授業リフレクションの充実

子どもの学びを見取ることを大切にし、子どもの名前を出して学びの姿の具体を語るという授業リフレクション（振り返り）を実施しています。
授業リフレクションを通して、教員も「学び合い」の授業のよさを実感しています。

【授業リフレクション】

- ・4人グループでの学びの共有
- ・自ら学んだことの発表
- ・自評（授業者が学んだこと）
- ・指導助言

④ しががま学びの共同体推進委員の任命と推進会議

市内各小中学校には、2名の「しががま学びの共同体推進委員」を任命しています。
各学校のモデルとして授業改善を推進しています。

⑤ 学力向上ヒアリングの実施

8月末と1月初めに市内各小中学校を訪問し、「学力向上ヒアリング」を実施しています。
ヒアリングでは、自校の結果の分析と今後の方策について確認しています。

ウ カリキュラムマネジメントの工夫

① 2月までに教科書の内容を終える年間指導計画

2月までに教科書の内容を終わらせ、3月を苦手分野克服期に活用する年間指導計画を立てています。つまりき解消の時間を確保し、児童生徒一人一人の実態に合わせた指導を行っています。

② 学年別カリキュラム一覧の作成

小学校では、令和2年度から新学習指導要領が全面実施となり、教科書も改訂されます。それを踏まえて、各学年別カリキュラム一覧を作成します。

エ 小中連携の取組

① 「小中一貫教育グランドデザイン」の作成

各中学校区ごとに「小中一貫教育グランドデザイン」を作成し、児童生徒及び教員の交流が実施されています。

② 児童生徒間交流

中学生が小学校へ行く交流，小学生が中学校へ行く交流，小中一緒に活動する交流を行っています。

③ 教師間交流

小中乗り入れ授業，ワンディ研修（各校5名，計50名），授業交流を計画的に実施しています。

④ 中学校区ごとの授業研究会

各中学校区ごとに授業研究会を開催しています。すべての中学校区で外部講師を招へいた研究会を行いました。

	交流行事（例）	活動（例）
中⇒小	小学校運動会	中学生の招待リレー
	サマースクール	中学生ティーチャー
小⇒中	中学校体育祭	6年生・希望者参加
	部活動，授業体験	6年生・全員参加
小⇔中	中学校について知ろう	中1・小6交流授業

乗り入れ授業	ワンディ研修	授業研究会
外国語：小5・6年 数 学：中1年	丸1日の 体験研修	中学校区単位の 授業研究会
外国語：中→小 数 学：小→中	小⇔中	小中合同
毎週1回	各校で年5名	年2回

工 小中連携の取組

⑤ 小中一貫教育推進会議の開催

市校長会と同日に校長を対象に行うもので、小中一貫教育をスタートさせてから毎年実施しています。今年度は「学びの共同体による授業づくり」の工夫及び進捗状況についての情報を共有しました。

⑥ 小中一貫教育コーディネーター会の開催

年2回（5月・1月）に市小中一貫教育コーディネーター委員会を開催しています。その中で、今年度の取組の総括を行い、次年度の計画を検討しました。小中一貫教育の課題についての情報交換も行いました。

⑦ 小中一貫教育アンケートの実施

毎年12月に児童生徒，保護者，職員を対象とした小中一貫教育についてのアンケートを実施しています。成果と課題を把握し次年度に生かしています。

才 市町村独自の実態，要請に応じて実施する取組（選択制）

① 授業力向上研修会の実施

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりに関する研修会を年間計61回実施しました。また，全教職員が最低でも年1回授業を公開するよう努めました。その中で，「授業リフレクション（事後検討会）」に力を入れ，教職員が4人グループで「児童生徒の学びは成立していたのか」の視点で学びを共有しました。

② 授業づくりのための先進地域への研修視察

年2回，転入管理職全員と各校2名が参加する茨城県牛久市の研修視察を実施しています。小中学校の授業参観と事後検討会に参加し「協同的な学び」についての研修を深めました。視察報告書を作成するとともに，学んだことを各校の実践に生かすよう努めています。

③ 学級集団診断テストの実施（Q-U調査）

「学級満足度調査（Q-U）」を年3回（6・11・2月）実施しています。学級満足度が全国値を上回っている学級数が，塩竈市の成果指標（80%）を上回る学級の割合（90%）となっています。

本事業1年目の成果と課題

	成果	課題
ア <u>標準学力調査</u>	結果の分析と取組シートを活用 手立ての効果の検証	学力の二極化の解消 下位群の底上げ
イ <u>全国学力・学習状況調査を 踏まえた授業改善</u>	わからなさをつなぐ授業の共有 児童生徒の変容 授業リフレクションの充実	「真正の学び」に向かう課題 個やグループでの学びへの対応
ウ <u>カリキュラム・マネジメントの 工夫</u>	2月までに教科書終了 3月は苦手分野克服期	「つまづき解消月間」の計画
エ <u>小中連携の取組</u>	一貫教育グランドデザイン 児童生徒間・教師間交流 中学校区授業研究会	交流の質を高める検証のあり方 中学校区ごとの授業改善の取組
オ <u>塩竈市独自の取組</u>	授業力向上研修会 6 1回 外部講師招へい・研修視察 学級満足度 (Q-U) 90%	「学びの共同体」による 授業実践の日常的な積み上げ